

和歌山県田辺市における明治 22 年水害の災害教訓伝承に関する調査

和歌山県県土整備部砂防課
和歌山県土砂災害啓発センター
国土交通省近畿地方整備局大規模土砂災害対策技術センター

○森川 智
宮崎徳生・筒井和男・岸畑明宏・坂口隆紀
木下篤彦

1. はじめに

和歌山県では、平成 23 年の紀伊半島大水害を契機として和歌山県土砂災害啓発センターを設置し、土砂災害の発生メカニズムに関する調査研究及び紀伊半島大水害をはじめとする過去の災害記録や教訓を風化させず後世に継承するため、土砂災害に関する啓発活動に取り組んでいる。

大規模土砂災害に備えるためには、「過去の災害に学び・生かす」取り組みが大切であり、県内各地域の過去の災害記録や教訓を調査し土砂災害に関する啓発活動の資料として活用している。

本県における過去の大規模土砂災害としては、明治 22 年、昭和 28 年、平成 23 年と約 60 年周期で発生している。特に、明治 22 年水害は県内で死者 1,247 人、流出家屋 3,675 軒の激甚な被害をもたらした。中でも、県南部に位置する会津川、富田川流域に被害が集中し、田辺市では会津川流域上流部に位置する高尾山と横山で大規模な崩壊の発生により天然ダムが形成された。その後決壊し、下流部にあたる田辺市街地を中心とする地域で甚大な被害が発生した。

本研究では、田辺市における明治 22 年に発生した大規模災害に関する写真、住民ヒアリング、自然災害伝承碑における土砂災害教訓伝承に関する調査結果を紹介する。

2. 明治 22 年水害における教訓伝承に関する調査方法

参考文献^{1)~3)}を基に明治 22 年水害の教訓伝承に関する調査を田辺市紺屋町から長野周辺エリアと龍神村下柳瀬地区(図-1)で以下のとおり実施した。

2.1. 明治 22 年水害当時の写真と現在を比較

明治 22 年水害当時の写真を基に、紺屋町から長野周辺エリアで写真撮影を実施し、明治 22 年水害当時の写真と比較した。代表的な比較写真を写真-1~3 に示す。当時被災した場所の多くでは家や道路が再建されている。また、写真-1, 2 の大規模崩壊斜面は、現在は緑に覆われているが、水害後 130 年以上が経過しても大規模崩壊が発生した地形であることが確認できる。なお、山全体の形は明治 22 年水害当時の原形をとどめていた。

2.2. 当時の記録を知る住民へのヒアリング調査

明治 22 年水害の記録を知る住民 2 人のヒアリング調査を実施した。

2.2.1. 龍神村下柳瀬地区の天然ダムに関する証言

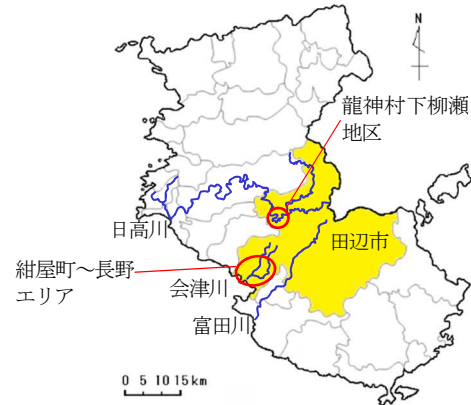


図-1 調査箇所位置図.



写真-1 明治 22 年水害当時の写真と現在の比較。田辺市上秋津地内。(左) M22 年水害時。(右) 2021. 3. 1 撮影。



写真-2 明治 22 年水害当時の写真と現在の比較。田辺市長野地内。(左) M22 年水害時。(右) 2021. 3. 10 撮影。



写真-3 明治 22 年水害当時の写真と現在の比較。田辺市紺屋町地内。(上) M22 年水害時。(下) 2021. 2. 10 撮影。

龍神村誌³⁾によると、明治22年8月19日未明に下柳瀬六地藏山が突如崩壊し、日高川を堰き止めたため上流一帯は瞬時に水没した。民家は川上へと押し流され住人らは屋根に上り助けを求めたが、それも束の間ことで大規模な崩壊により形成された天然ダムは一挙に決壊し、水魔は民家や人命を一瞬のうちに呑み、70戸が流失し83名の犠牲者が出た。

今回、当時の記録を知る区長Y氏と崩壊斜面の地権者O氏の2人にお話を聞いた(写真-4)。

Y氏・O氏の主な証言は次のとおりである。

- ・慰霊碑があるところがおそらく山崩れの中心である。
- ・過去にこの周辺の田んぼを掘り返したときに水害当時のものと思われる大木や崩れた岩盤が発見された。
- ・明治22年4月の町村合併でこの周辺が村の中心地となり役所もあったが、わずかその4ヶ月後に水害に見舞われ役所をはじめ村のすべてが流された。
- ・川の近くにあった家は、水害後、山裾などの高い位置に建てられた。
- ・地元では、山崩れで日高川が堰き止められ天然ダムができ民家が上流に流されこと、その後、天然ダムの決壊で民家が下流に一気に流されたこと、大正時代に地区に設置された灌用水の水路まで天然ダムの水位が上昇したことが言い伝えられている。
- ・令和元年8月に水害後130年目の慰霊祭として水害当時に避難を呼びかけた村民を主役とした講演会を開催し、明治22年水害の記録を振り返った。

2.3. 自然災害伝承碑に関する調査

参考文献^{3)~5)}、地域関係者への聞き取り調査を参考に現地調査を実施し、明治22年水害、明治26年水害、平成23年紀伊半島大水害に関する自然災害伝承碑が確認できた。明治22年水害に関する代表的なものを写真-5~9に示す。

水難記念碑がある長野八幡神社の旧社殿は、現社殿の下方に建立されていたが明治22年水害で流失し現在の場所に再建された。その後、水害から100年以上が経過した平成2年に下流の上三栖縄手の河原で旧社殿地にあった2つの灯籠が発見され、現社殿の水難記念碑のそばで大切に安置されている。

また、田辺市上芳養石神地区では、明治22年水害の災害記録と石神地区の復興が記された看板が田辺梅林から大蛇峰まで整備された遊歩道の入り口に設置され、大蛇伝説として地域に語り継がれている事例も見受けられた。

3. おわりに

明治22年水害から130年が経過し、当時の記録や教訓を知る人は限られていたが貴重な災害記録や教訓伝承に関する情報を収集することができた。全国的な過去の大規模土砂災害に関する事例については井上⁵⁾により調査が行なわれているように土砂災害の歴史や教訓を研究することも重要であり、引き続き研究を継続し、減災のため土砂災害に関する啓発活動に活用していき



写真-4 明治22年水害に関する住民ヒアリング状況。



写真-5 下柳瀬橋にある明治22年水難者霊位。



写真-6 会津公園内にある明治大水害記念碑。



写真-7 蟻通神社前にある大水害百周年記念碑(水位標)。



写真-8 長野八幡神社にある水難記念碑と平成2年に現社殿に安置された灯籠の一部及びその説明文。

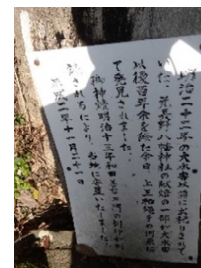


写真-9 田辺市上芳養石神地区(田辺梅林)にある明治22年水害と復興の記録が記された看板。

いと考える。

参考文献

- 1) 明治大水害誌編集委員会：紀州田辺明治大水害100周年記念誌，和歌山県田辺市，1989。
- 2) 紀南文化財研究会：ふるさとの思い出写真集明治大正昭和田辺，佐藤今朝夫，p68-71，p114-115，1980。
- 3) 龍神村誌編さん委員会：龍神村誌上巻，龍神村，p67-88，1985。
- 4) 森光國：長野地区社会史，p118-123，2011。
- 5) 井上公夫：歴史的大規模土砂災害地点を歩く(そのⅢ)，丸源書店，2020。